

ハイデガー Heidegger, Martin 1889 ~ 1976

ドイツの哲学者。「存在の探求」を課題とした哲学的思索を展開した。

ドイツ南部バーデンのメスキルヒに生まれる。この 1889 年にニーチェの精神が崩壊し、オーストリアに A・ヒトラーが生まれていることは、その後のハイデガーを象徴するような偶然の一致である。フライブルク大学で当初神学を学ぶが、後に哲学に転じた。卒業後は同大学の助手となっており、1916 年から教授として着任した E・フッサール(1859~1938)に学び、その現象学の方法に強い影響を受けた。『存在と時間』は、1927 年、マールブルク大学在職中に刊行された。この書は、哲学のみならず思想界に大きな衝撃を与えている。翌 1928 年、彼はフッサールの後任としてフライブルク大学教授となった。ドイツにヒトラー政権が誕生した 1933 年、ハイデガーは同大学総長に選出される。その直後にナチスに入党した彼は、総長就任講演『ドイツ大学の自己主張』においてナチスへの共感と協力を表明した。総長職は一年で辞し、以後はニーチェ講義など思索に沈潜するが、1945 年ドイツの降伏とともに対ナチ協力者として教授資格を剥奪(1951 年に復職)された。戦後も旺盛な講義・講演と執筆活動が続き、死の前年から 100 巻を超える全集の刊行が始まり、現在も継続中である。

Great Books 44 存在と時間(Sein und Zeit)

1927 年、ハイデガーが 37 歳で刊行した主著で、20 世紀を代表する哲学書とされる。日本語訳では『存在と時間』と題されることもある。序論において、2 部から成る全体の構成と各篇の題名が明らかにされているが、刊行されたのは第 1 部第 2 篇までであり、結局その後は書かれずに終わった未完の書でもある。

ハイデガーの意図したものは、西洋哲学の伝統である存在論の構築だった。近代科学が対象とする個々の事物や現象の研究を超えて、世界そのものが「ある」ということを根本的に解明しようとする意味で、それはギリシア以来の形而上学をめざす試みでもあった。

ハイデガーはこのことをまず「存在(Sein)」と「存在者(Seiend)」の区別として問題提起する。存在者とは個別的・具体的に存在する「もの」や「こと」であるが、存在とはそれら存在者を存在させている「ある」ことそのものである。その上で、存在そのものを解明するには、「存在とは何か」という問いを發し、明瞭ではないにせよ、存在について何らかの了解をもちうる人間という存在者の意味を明らかにしなければならない。ハイデガーは人間をあえて「**現存在(Dasein)**」と呼び換え、その分析を本来の存在論に先立つものとして基礎的存在論と名づけた。本書の内容は、結局この現存在についての考察に終始し、めざされた存在論には到達していない。しかし、そこで示された現存在についての思索、すなわち人間のあり方としての「世界内存在」、人間の存在の本質としての「**気遣い**」・「**時間性**」といった概念は、難解なものではあるが、それまでにない独自で深遠な思想として、哲学のみならず文学、神学、精神医学にまで重大な影響を及ぼしつつ現在に至っている。

なお、現存在は「**実存**」ともいわれるので、ハイデガーを実存主義に含める見方もあったが、本人は一貫してこれを拒否している。

Key Word 現存在(Dasein)

われわれはそのつどすでになんらかの存在了解内容のうちで生きているのだが、それと同時に存在の意味は闇におおわれているということ、このことが、「存在」の意味に対する問いを繰り返す原則的な必然性を証明するのである。
<原佑, 渡辺二郎共(訳)『世界の名著 62 ハイデガー』p69 中央公論社>

存在問題を仕上げるとは、或る存在者を 問いを發する存在者を その存在において見通しのきくものにするのである。[略]われわれ自身こそそのつどこの存在者であり、またこの存在者は問うことのある可能性をとりわけもっているのだが、われわれはこうした存在者を、術語的に、**現存在**と表現する。存在の意味を問いたずねる問いを表立って見通しのきくように設定するためには、或る存在者〔現存在〕をその存在に関して先行的に適切に説明しておく必要があるのである。

<原佑, 渡辺二郎(共訳)『世界の名著 62 ハイデガー』p69 中央公論社>

(存在と存在者)

ドイツ語の動詞 sein とその現在分詞 seiend の名詞化。英語の be と being に当たる。

(現存在)

ドイツ語の副詞 da(そこに)と sein が結合した動詞 dasein の名詞化。カントやヘーゲルの術語にもあるが、人間を意味するのはハイデガー独自の用法。

◆ *Great Books* 文献案内

- 📖 ハイデッガー全集 第2巻 有と時 / 辻村公一(訳)
創文社 1997年刊 651, 36p <134.9/170/2> 資料番号 21009881
- 📖 世界の名著 62 ハイデガー / 原佑(編)
中央公論社 1971年刊 686p <080/5/62> 資料番号 12784773
- 📖 ハイデッガー選集 16~17 存在と時間 上・下 / 細谷貞雄(ほか訳)
理想社 1963年刊 <134.9/14/16~17> 資料番号 10216828, 10216836
- 📖 存在と時間 上・中・下(岩波文庫) / 桑木務(訳)
岩波書店 1960~1963年刊 <1134/8/1~3>
- 📖 存在と時間 上・下 / 松尾啓吉(訳)
勁草書房 1960~66年刊 <134.9/26/1~2> 資料番号 10217289, 10217297

◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 ハイデガー(シリーズ・哲学のエッセンス) / 北川東子(著)
日本放送出版協会 2002年刊 110p <134.96LL/10> 資料番号 21547625
- 📖 ハイデガーの知 88 / 木田元(編)
新書館 2002年刊 252p <134.96LL/9> 資料番号 21508213
- 📖 ハイデッガー研究 / 小野真(著)
京都大学学術出版会 2002年刊 505p <134.96LL/5> 資料番号 21450366
- 📖 現代思想の冒険者たち 第8巻 ハイデガー / 高田珠樹(著)
講談社 1996年刊 337p <108EE/106/8> 資料番号 20875027
- 📖 ハイデガー (叢書・ユニベルシタス) / リュディガー・ザフランスキー(著) 山本尤(訳)
法政大学出版局 1996刊 664, 32p <134.9EE/364> 資料番号 20871778
- 📖 ハイデガーの思想(岩波新書) / 木田元(著)
岩波書店 1993年刊 240p <134.9BB/338> 資料番号 20566733
- 📖 意味・真理・場所 / 細川亮一(著)
創文社 1992年刊 551, 12p <134.9AA/328> 資料番号 20466181
- 📖 ハイデガーとの対話 / 柿原篤弥(著)
尚学社 1991年刊 447p <134.9AA/331> 資料番号 20483327
- 📖 ハイデガーの哲学(現代思想選書) / 桑野耕三(著)
北樹出版 1990年刊 242p <134.9Y/306> 資料番号 20207734
- 📖 ハイデッガー全集 全102巻・別巻3(刊行中) / 辻村公一(ほか編)
創文社 1985年~ <134.9/170>
- 📖 人類の知的遺産 75 ハイデッガー / 茅野良男(著)
講談社 1984年刊 331, 6p <280.8K/13/75> 資料番号 10497741
- 📖 ハイデガー(20世紀思想家文庫) / 木田元(著)
岩波書店 1983年刊 264p <134.9P/153> 資料番号 12305553
- 📖 ハイデッガー選集 30冊(一部未刊)
理想社 1952~1983年刊 <134.9/14>